

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

						自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成28年2月2日	評価日	平成28年2月25日	
					評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	
					分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議 員による改善に向けた支援 策	
1 確かな学力	読書の習慣化	朝読書の確実な実施	学校外でも読書すること 生徒に学校外でも読書する ように働きかけること	生徒・保護者・教職員四方に 実現度が低い 実現度3. 1~3. 9	⇒	・国語科や総合的な学習の時間の 授業で図書室を活用した学習を行 った。 ・主体的な学習活動を積極的に授業 に取り入れられるよう授業の自己評 価の視点を提示した ・3年は家庭学習の時間が伸びたが、1, 2年は習慣がついたとはい えない。	・引き続き、各教科・領域の授業の 中で図書室を活用するなどして学習 活動における図書の活用を推進す る。 ・各教科では学習確認プログラムや 全国学力調査の結果を分析し課題 を明らかにしたが、プロジェクトチー ムとして課題克服を目指したい。 ・宿題の出し方や量について見直 し、提出の状況に応じて必要な生徒 には担任と連携してやりきらせるな ど、宿題を丁寧に出していくべきだ。	⇒	・前回よりも、学習や読書に関 する生徒・保護者・教職員の意 識は向上しているが、家庭学 習につながるような課題の検 討をしてほしい。 ・子どもたちが学習するスペ ースは開放されているか。ピロ ティーではたくさんの生徒が学 習しているのをよく見るが、図 書室の放課後の開館を検討し てはどうか。
	授業改善	基礎基本の確実な定着 探究力(活用力)の育成	授業がわかりやすいくこと 授業に積極的に参加する こと	重要度6. 7 実現度4. 4 重要度6. 3 実現度4. 6 「出来ている」は75%程度		・自己有用感も前回と大きな変化は見 られない。	・生徒会活動や授業を中心とした生 徒の主体的な取組をさらに充実させ ていきたい。 ・自己有用感を高める為、生徒の主 体的な活動を認め褒める様々な場 を意図的に創っていく。 ・規範意識の向上につながる道徳教 育および生徒の主体的な取組を推 進する。また、日常的な声かけ、き め細やかな指導を徹底する。	⇒	・子どもたちが学習するスペ ースは開放されているか。ピロ ティーではたくさんの生徒が学 習しているのをよく見るが、図 書室の放課後の開館を検討し てはどうか。
	家庭学習の定着	生徒の意欲・関心を高める 家庭学習課題の提出	家庭で1h以上学習するこ と	生徒・保護者共に「出来てい る」は50%程度		⇒	・生徒が地域で積極的に取り 組めていると感じる。 ・良くなっている所をもっとア ピールしてはどうか。 ・叩かれたり、蹴られたり、押さ れたりした生徒の割合は減っ ているので地道に取り組まれ ていると思うが、まだ残ってい ることに意識してほしい。	⇒	・規範意識等の向上においては家 庭の協力が必要である。学校から も呼びかけをして欲しい。我々も 気になる場面に出くわせば、声を かけ注意をしてきたしこれからもし ていく。
2 豊かな心	学校生活が楽し い	生徒会活動や授業を中心 とした取り組み(呼びかけ)	わたしは、学校に来るのが 楽しいです	「楽しい」と感じている生徒の 割合は前回と大きな変化は見 られない。	⇒	⇒	・生徒会活動や授業を中心とした生 徒の主体的な取組をさらに充実させ ていきたい。 ・自己有用感を高める為、生徒の主 体的な活動を認め褒める様々な場 を意図的に創っていく。 ・規範意識の向上につながる道徳教 育および生徒の主体的な取組を推 進する。また、日常的な声かけ、き め細やかな指導を徹底する。	⇒	・規範意識等の向上においては家 庭の協力が必要である。学校から も呼びかけをして欲しい。我々も 気になる場面に出くわせば、声を かけ注意をしてきたしこれからもし ていく。
	自己有用感の育 成	あらゆる場面で生徒の活動 を認めて褒める	わたしは、クラスの人の役 に立っていると感じていま す	「役に立っている」と感じている 生徒の割合は前回と大きな変化 は見られない。		⇒	⇒	⇒	⇒
	規範意識の向上	生徒会活動や授業を中心 とした取り組み(呼びかけ)	叩かれたり、けられたり、強 く押されたり	加害生徒の割合は前回よりも 低くなかった		⇒	⇒	⇒	⇒
3 健やかな体	基本的生活習慣 の確立(朝食)	・保健だよりによる啓発活動 ・学級活動での保健指導	朝ご飯を食べること	毎朝朝食を食べている生徒 は、8割程度である。	⇒	⇒	・個別の指導だけでなく、特別活動 等で時間を確保し、健康教育を推進 する。 ・生徒の委員会活動の一環として生 活アンケートを実施し、喚起を促す。	⇒	・家庭学習以外の時間(スマ ホ・携帯の使用、ゲームで遊 ぶ)の時間が増え、朝食・睡眠 時間など基本的な生活習慣が 確立しにくくなっているのではないか。 ・睡眠時間の必要性について の授業をしてもらいたかった。
	基本的生活習慣 の確立(就寝時 間)	・毎朝の担任による健康観察 ・保健だよりによる啓発活動 ・学級活動での保健指導	8時間程度の睡眠を取るこ と	学年が上がるにつれて、就寝 時間が遅くなる傾向がある。 8時間以上の生徒は54%		⇒	⇒	⇒	⇒
	小中一貫教育の 推進	・小中合同研修会の実施 ・小中6主任会の実施 ・前授業の実施 ・オープンキャンパスの実施	・小中合同研修会2回(夏季休業 中2月)に実施。各主任会2, 3回実施。 ・まだまだ推進していく余地が ある。	・合同研修会2回(夏季休業 中2月)に実施。各主任会2, 3回実施。 ・まだまだ推進していく余地が ある。		⇒	⇒	⇒	⇒
4 独自の取組	保護者・地域 との連携	・地域行事へのボランティア活 動への呼びかけ ・学校運営協議会を中心に 防災学習に取り組む	・地域行事やボラン ティア活動に参加する こと	・ボランティア活動への参加はを必 要とするもまだ十分に参加できてい ないが、積極的に参加する生徒も 現れ、生徒・保護者・教職員の意識 が上がる。 ・地域の方からお礼の声 をよく聞くようになった。 ・地域の方にも参加していただき防 災学習を実施。	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	情報発信の充実	・字級、学年、進路、学校だ よりの発行やホームページの 更新	・学校ホームページのア クセス数 ・地域の声	・1日の平均アクセス数が昨年度よ り増えている。また、地域の方から 「たよりの配布により、学校の今 の様子がわかるようになった」との声 を聞く。		⇒	⇒	⇒	⇒

4 総括・次年度の課題

・現在、子どもたちは落ち着いた学校生活を送っている。また、生徒の地域での活動が増え、地域の方々の学校への意識も高くなり、協力を頂ける機会が増えた。しかし、個々に生徒を見てみると、まだまだ気になるところもある。いじめや不登校の問題も深刻である。今後は、よりきめ細やかな指導を行っていきたい。
・宿題・課題の出し方や量について検討し、家庭学習の習慣化にしっかりと取り組んでいきたい。
・学習規律や規範意識をさらに向上させるために、小小や小中でしっかり連携し、義務教育9ヵ年の見通しを持って学習規律や規範意識の定着をはかりたい。
・自己有用感を高めるために、小学校や地域と連携しながら、教育課程の中で子どもたちの主体的な活動の場を設定したい。